

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第104集

長土呂遺跡群

HIJIRI

ISHI

聖石遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂聖石遺跡Ⅱ調査報告書

2002.3

双信電機株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第104集

長土呂遺跡群

HIJIRI

ISHI

聖石遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂聖石遺跡Ⅱ調査報告書

2002.3

双信電機株式会社
佐久市教育委員会



聖石遺跡Ⅱ 遺跡周辺航空写真

昭和60年当時の遺跡周辺。新幹線佐久平駅の姿はなく、遺跡東側には建設中の国道141号線と長野新幹線が見られるが、かつての田畑の風景が窺える。遺跡西側に流れるのは濁川。

例 言

- 1 本書は、双信電機株式会社が行う土壌調査及び土壌改良事業に伴い、平成13年度に行った長土呂遺跡群 聖石遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 調査委託者 双信電機株式会社
- 3 調査受託者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地
長土呂遺跡群 聖石遺跡Ⅱ (NHIⅡ)
佐久市大字長土呂字聖石 429-1
- 5 調査期間及び面積
聖石遺跡Ⅱ 発掘調査 平成13年9月20日～10月13日
面 積 211㎡
整理作業 平成13年10月15日～11月6日・平成14年1月28日～3月29日
- 6 発掘作業は出澤、整理作業は佐々木・出澤、本書の編集、執筆は出澤が行った。
- 7 本書及び聖石遺跡Ⅱ出土遺物等すべての資料は、佐久市教育委員会の管理下に保管されている。

本調査、また報告書作成にあたりお世話になったすべての方々に、記して感謝の意を表します。

凡 例

- 1 遺構の略号は以下の通りである。
ピットー P 溝址ー M
- 2 挿図の縮尺は以下の通りである。
セクション図・ピット 1/40 溝址 1/80 遺物 1/4
上記以外のものについては挿図中に明記した。
- 3 海拔標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」として記した。
- 4 土層・遺物胎土の色調は、1988年度版『新版 標準土色帖』に基づいて記した。
- 5 写真図版中の遺物の縮尺は概ね挿図と同じである。またそれ以外のものについては明記してある。遺物番号と挿図番号は対応する。
- 6 挿図中におけるスクリーントーン表現は、以下の通り。



赤色塗彩

目次

巻頭図版

例言

凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯と概要

第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査日誌	2
第4節 遺跡の環境	3
第5節 基本層序	5

第Ⅱ章 遺構と遺物

写真図版

奥付

挿図目次

第1図 聖石遺跡Ⅱ位置図(1:10,000)	1
第2図 聖石遺跡Ⅱ周辺遺跡分布図(1:25,000)	4
第3図 基本層序模式図	5
第4図 聖石遺跡Ⅱ全体図(1:200)	6
第5図 M1号溝址・P1号ピット 実測図	8
第6図 聖石遺跡Ⅱ グリッドセクション図(E-W方向)	9・10
第7図 聖石遺跡Ⅱ グリッドセクション図(N-S方向・1)	11
第8図 聖石遺跡Ⅱ グリッドセクション図(N-S方向・2)	12
第9図 聖石遺跡Ⅱ グリッドセクション図(N-S方向・3)	13
第10図 聖石遺跡Ⅱ 出土遺物(1)	14
第11図 聖石遺跡Ⅱ 出土遺物(2)	15
第12図 聖石遺跡Ⅱ 出土遺物(3)	16
第13図 聖石遺跡Ⅱ 出土遺物(4)	17

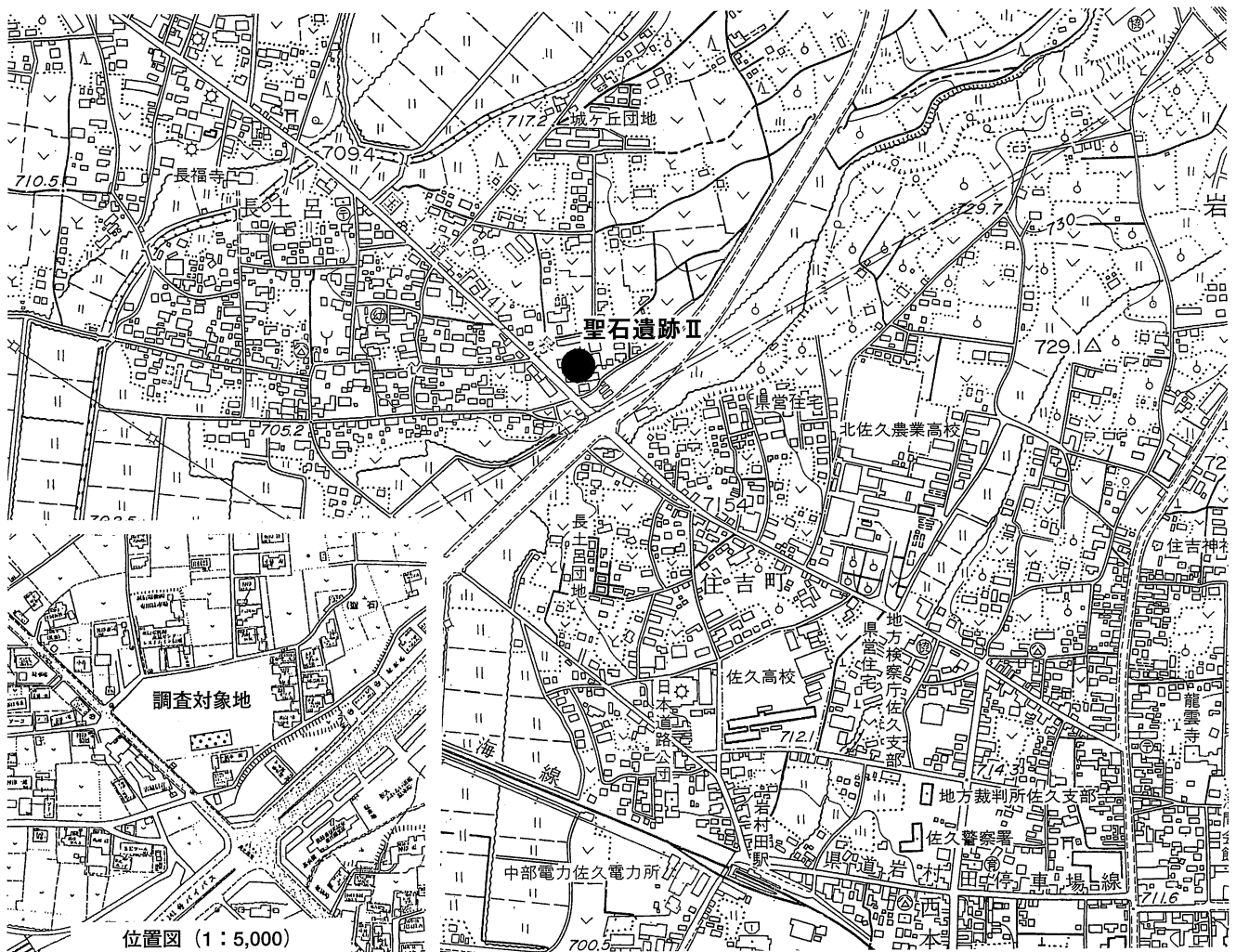
第 I 章 調査の経緯と概要

第 1 節 調査の経緯と経過

聖石遺跡Ⅱは佐久市長土呂地籍に所在する。佐久市の北方は浅間山から噴出した浅間山第 1 軽石流に覆われ、火山山麓に見られる「田切り」地形が見られる地域である。本遺跡はそうした田切り地形の帯状に残る台地部分から低地に向かって落ち込んでゆく部分にちょうど位置しており、標高は713m内外を測った。遺跡周辺は新幹線佐久平駅開通以来、佐久でも有数の大商業地として現在も開発が進む地域である。

今回、周知である長土呂遺跡群内において双信電機株式会社により土壌調査、及び土壌改良事業が計画され、佐久市教育委員会に遺跡の有無について照会があった。教育委員会では試掘調査を行い、結果、事業対象地において弥生土器を確認する包含層・遺構・遺物等を確認した。

その結果を踏まえ、双信電機株式会社と佐久市教育委員会、両者において協議が行われ遺構の破壊が懸念された事業対象地について佐久市教育委員会文化財課によって記録保存を目的とする発掘調査が実施されることとなった。



第 1 図 聖石遺跡Ⅱ 位置図 (1:10,000)

第2節 調査体制

平成13年度

◎発掘調査受託者 佐久市教育委員会

教育長 依田 英夫（4月～6月）、高柳 勉（7月～）

◎事務局

教育次長 小林 宏造（4月～5月）、黒沢 俊彦（5月～）

文化財課長 草間 芳行

文化財係長 荻原 一馬（4月～5月）、森角 吉晴（5月～）

文化財係 林 幸彦、須藤 隆司、小林 眞寿、羽毛田卓也、富沢 一明、上原 学、山本 秀典
出澤 力

調査主任 佐々木宗昭、森泉かよ子

調査副主任 堺 益子

調査員 浅沼ノブ江、岩崎 重子、江原 富子、小幡 弘子、柏木 義雄、神津ツネヨ、桜井 牧子
佐藤志ず子、佐藤 剛、沢井 臯月、細萱ミスズ、渡邊久美子

第3節 調査日誌

平成13年

9月20日 発掘調査開始。器材等を搬入し、調査の準備を行う。

9月20日～10月12日

発掘調査。調査区内にグリッドを設定し、層序を確認しながら包含層を掘り下げる。
確認されたピットP1、溝址M1を調査する。

10月13日 発掘調査終了。調査区の全体写真を撮影後、器材を撤収し調査を終了する。

10月15日 整理作業開始。室内において整理作業を開始する。

10月16日～11月6日

室内整理作業。出土遺物の洗浄、注記作業を行った。

平成14年

1月28日～3月29日

室内整理作業。出土した土器の接合・実測・写真撮影、図面整理、報告書の編集、執筆を行う。

第4節 遺跡の環境

聖石遺跡が存在する長土呂遺跡群は佐久市の北部、佐久市長土呂地籍に所在する。佐久平の北方は浅間山南麓の末端部にあたり火山噴出物が厚く堆積しているが、その性格上水による各種作用を受けやすく小河川などによって容易に浸食され、結果大小さまざまな峡谷や「田切り地形」と呼ばれる火山山麓特有の帯状台地と低地からなる交互地形が形作られた。

田切り地形は現在の佐久平駅周辺でその姿を失い、その一帯は田切りから流出した土砂が堆積する低湿地となっている。昭和40年代までは、塚原泥流により形成された「流山」と呼ばれる残丘が小島のように点在していたが、一帯は圃場整備により水田となり、駅周辺にいたってはかつての面影とは隔絶の感が否めない。今回の調査対象地から東、現在は国道141号線が走る所は、かつて田切りの低地があり対象地は田切りの微高地から低地に向かい傾斜している部分のより低地に近い部分に立地している。

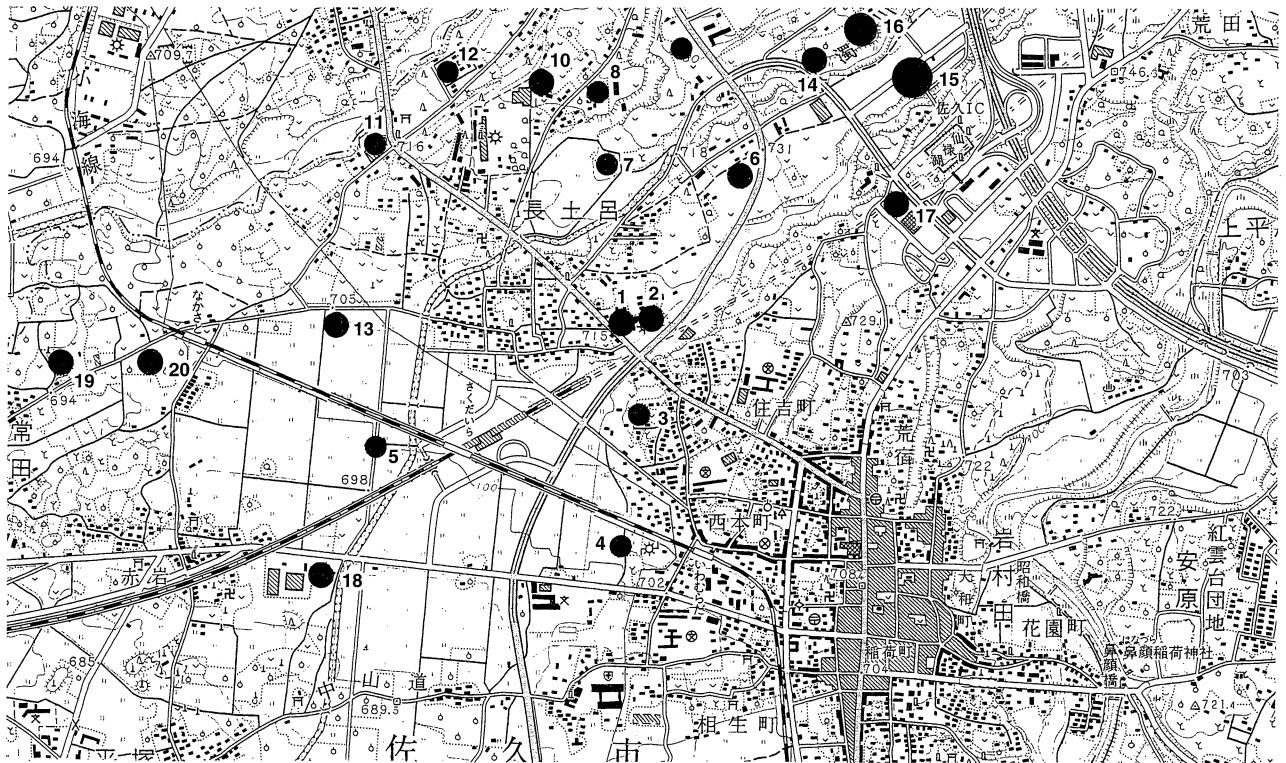
本遺跡の周辺では田切りの台地上、またその低地に多くの遺跡の存在が知られている。上信越自動車道、長野新幹線、流通業務団地造成事業、区画整理事業といった大規模な開発が相次ぎ当地の風景は大きく様変わりしたが、それらに伴う大規模な発掘調査によって、当地周辺に現在の活況にも劣らない佐久有数の大集落が存在したことが明らかになっている。

田切りに挟まれた台地上に展開する遺跡群としては、本遺跡の所在する長土呂遺跡群を始め、近津遺跡群、周防畑遺跡群、芝宮遺跡群、枇杷坂遺跡群などがある。これらを中心にして本遺跡周辺の遺跡分布を以下に示した。(第2図)

本遺跡と同じ田切り上に展開する遺跡として特に顕著なのは平成元年から7年にかけて発掘調査が行われた長土呂遺跡群聖原遺跡Ⅰ・Ⅲ～Ⅵ・Ⅷ・Ⅸである。97,000㎡の面積から古墳～平安時代の住居址975軒、掘立柱建物址860軒等が確認され、この遺跡周辺が古代の一大集落跡だったことが明らかになっている。

田切りの台地上の舌端部では以前より弥生時代後期の集落の存在が知られていた。本遺跡周辺での弥生時代の遺跡の発掘調査では昭和55年に行われた周防畑B遺跡があり、弥生時代後期の住居址23軒、土坑22基、円形周溝墓2基が調査されている。また聖石遺跡Ⅱに隣接し、平成13年度に同じく発掘調査が行われた聖石遺跡Ⅰでは弥生時代後期の住居址3軒を認め、また試掘調査時には調査区域の北西部で住居址21軒の存在を確認しており長土呂遺跡群の存在する台地の舌端部から北西に向かう地域に弥生時代の集落の存在することが明らかとなっている。

田切りの南の低湿地では弥生時代後期から古墳時代前期の住居址3軒が発掘調査されており、低湿地に弥生時代後期から古墳時代前期に当たる集落址が存在する事が確認されている。さらに低湿地からは濁り遺跡・中長塚遺跡・松の木遺跡など水田址や水田に関連する遺構が発見された遺跡もあり、低湿地がこの地で生活を営んだ人々によって食料生産の場として利用されていたことが分かっている。



第2図 聖石遺跡Ⅱ 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

No.	遺跡名	所在地	立地	縄	弥	古	平	中	備考
1	聖石遺跡Ⅱ	長土呂字聖石	低地		○				本報告書
2	聖石遺跡	長土呂字聖石	台地		○				平成13年度発掘調査
3	直路遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田字直路水引	微高地		○			○	平成10年度発掘調査
4	清水田遺跡	岩村田字清水田	台地		○	○			昭和53年度発掘調査
5	辻の前遺跡Ⅱ	長土呂字辻の前	低地		○				平成12年度発掘調査
6	下聖端遺跡Ⅰ～Ⅳ	長土呂字下聖端	台地		○	○	○		昭和63・平成4・11年度発掘調査
7	高山遺跡	長土呂字下高山	台地				○		平成5・7年度発掘調査
8	入高山遺跡	長土呂字入高山	台地				○	○	平成11年度発掘調査
9	上高山遺跡	長土呂字上高山	台地				○		平成元・3年度発掘調査
10	北近津遺跡	長土呂字北近津	台地		○		○		昭和46年度発掘調査
11	西近津遺跡	長土呂字西近津	台地		○	○			昭和46年度発掘調査
12	周防畑A遺跡	長土呂字南下北原	台地					○	昭和54年度発掘調査
13	周防畑B遺跡	長土呂字下仲田	台地		○	○	○		昭和54年度発掘調査
14	南上中原・南下中原	長土呂字南上中原	台地				○	○	昭和63・平成5年度発掘調査
15	聖原遺跡Ⅰ～Ⅸ	長土呂字聖原	台地				○	○	平成元～9年度発掘調査
16	芝宮遺跡群	長土呂字上芝宮	台地				○	○	平成5～7年度発掘調査
17	上久保田遺跡Ⅰ～Ⅶ	岩村田字上久保田向	台地				○	○	平成元～4年度発掘調査
18	濁り遺跡	塚原字濁り・丸山	低地		○	○	○		平成4年度発掘調査
19	東池下古墳群	常田字東池下	微高地				○		昭和49年度発掘調査
20	下大豆塚古墳群	塚原字下大豆塚	微高地				○		昭和56年度発掘調査

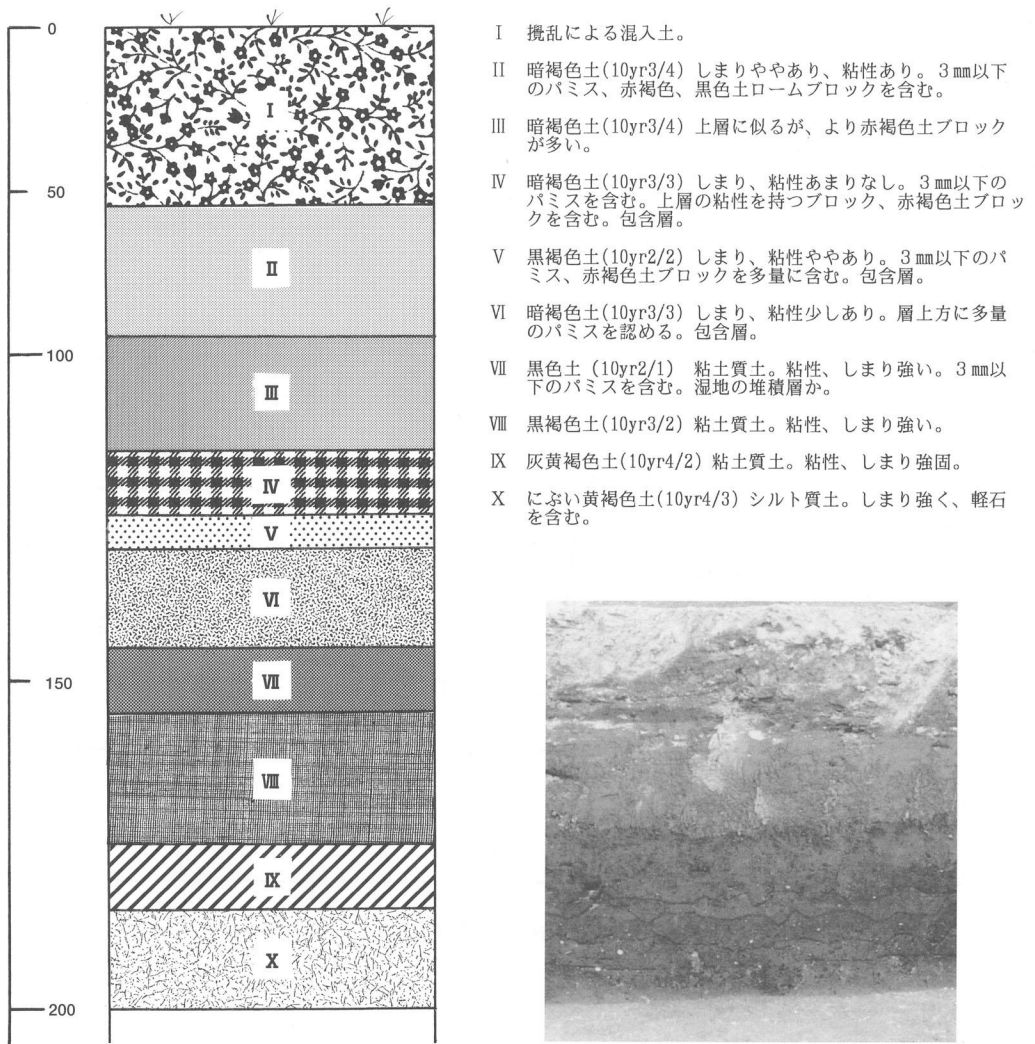
第1表 聖石遺跡Ⅱ周辺遺跡一覧表

第5節 基本層序

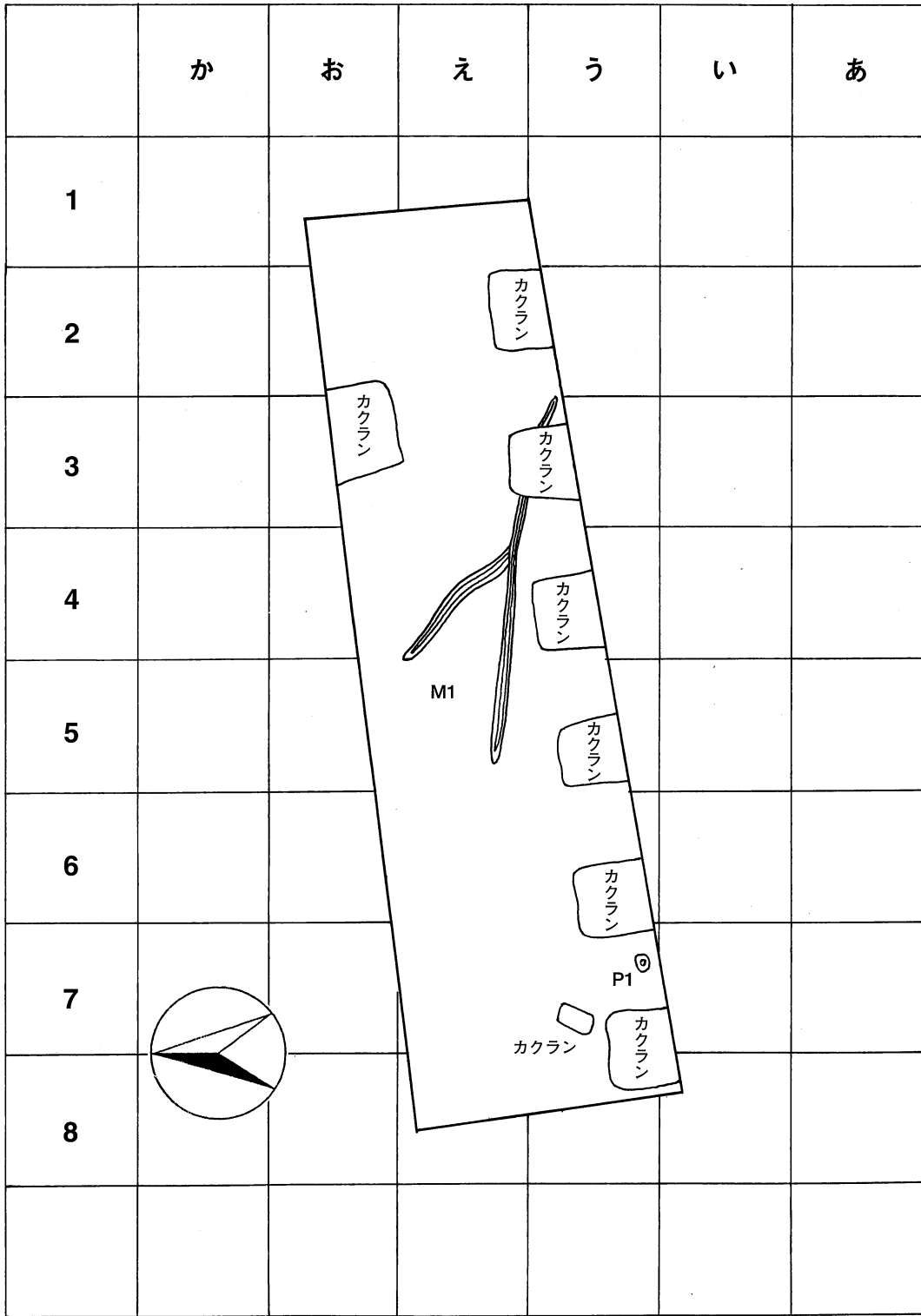
おー3グリッドより観察した層序の模式図を示す。

地表下約50～60cmは攪乱で、遺物が確認される包含層は地表から約120cm掘りさげた付近から確認される。III～VI層は層が波打ち河川の氾濫などの作用によりこの地に堆積した層であると思われる。これらの層からは弥生時代中期～後期の土器が確認されるが、その中で特に遺物を含む包含層はV・VI層である。VI層より下層のVII～X層では非常に堅くしまった粘性の強い層が現れ、調査対象地がかつて湿地であったことを示している。調査は地表下約120cmのIV層下方から行った。

調査対象地は北西から南東に向かい緩やかに下りの傾斜を見せている。調査区北東には一部ロームの地山が見られるが、それよりも低地となる部分には粘土質土の層が確認された。



第3図 基本層序模式図



第4図 聖石遺跡Ⅱ 全体図 (1:200)

第Ⅱ章 遺構と遺物

本遺跡から確認された遺構にはピットと溝址がある。ピットは基本層序で言うところのⅣ層で確認され、溝址は包含層の下の水中堆積層であるⅦ層上方で認められた。包含層はグリッドごとに掘り下げ、その層序の確認とともに遺物の調査を行った。比して低地になっている調査区東側では一部水中堆積層まで掘り下げた。層はすべてで20層に分割され、粘土質土である3・4層上方に堆積する1・2・9・12層が主に土器を包含した層である。3・4層下には地形に対し水平に堆積する水中堆積層が認められる。

包含層からは弥生中期～後期のかけての土器片が多数出土し、それらには表面に摩耗などの損傷は認められないことから、河川氾濫等により比較的短期間でこの地に流れてきたものであると思われる。遺跡東側は現在地下を長野新幹線が通り地上は国道141号線に姿を変えているがかつては蟹沢と呼ばれる小河川があり、その存在は古い地図などには認められる。聖石遺跡Ⅱの周辺は蟹沢の諸作用を受けた地域であり、調査対象地に見られた河川の氾濫原はこの蟹沢に求められると思われる。

本遺跡と同じ台地上の長土呂遺跡群下聖端遺跡において、本遺跡と同様河川の氾濫の痕跡が確認されている。道路改良事業に伴い昭和63年と平成元年に行われた下聖端遺跡Ⅰ・Ⅱの調査において発掘された溝状遺構は、洪水によって、または既存の溝址に多量の水が流れ込み氾濫したことによって成立したもので、特にM6・8号溝状遺構の覆土は下聖端遺跡Ⅱの存在する台地上のほぼ全面を5cm～20cmの厚さで覆っていたという。この層下からは古墳時代の住居址が検出され、平安時代中期の住居址はこの層中より検出されており、この地は奈良時代から平安時代前期の間に水害に見舞われたとされている。

本遺跡の西方に位置する田切り状に展開する周防畑遺跡群でも、河川の氾濫の痕跡を残す遺構が発掘されている。平成11年度に佐久平駅周辺の区画整理事業に伴い行われた辻の前・中仲田遺跡では、良好な弥生時代後期の包含層が確認され、また同じく調査された弥生末期～古墳時代初頭のものと思われる住居址は、覆土は渦を巻くように乱れ遺物は住居址南壁の際に押しつけられるような状態で出土しており、住居址が実際に居住空間として機能していたと思われる弥生末～古墳初頭に実際にこの地を水害が襲った証拠である。ただし、辻の前・中仲田遺跡が存在する周防畑遺跡群は蟹沢の西方を南に流れる濁川の扇状堆積層にかかる地域であり、この河川氾濫は濁川に依るものである。同河川は古来より幾度となく水害を起こしており文献にもそのことが記されている。火山性の堆積物に覆われ河川による作用の影響を顕著に受ける当地では、このような自然の影響で地形が刻々と変化していったことは想像に難くない。

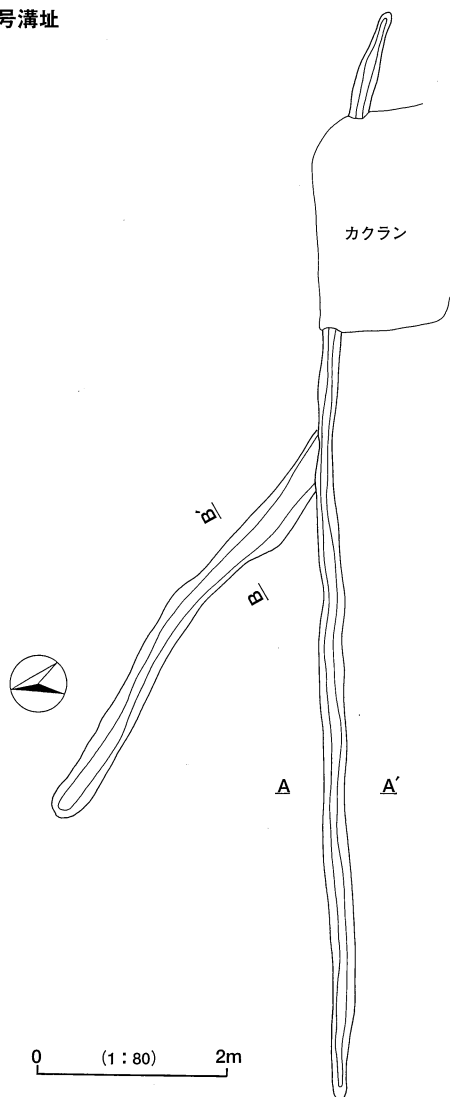
遺 構

M1号溝址は、えー3～えー5グリッドにかけて確認され、全体層序Ⅶ層上方より検出される。粘性の強い水中堆積層上を東西に走り、深さは8cm前後、幅36cm前後を測る。遺物等の出土はなく、自然流路の可能性はある。

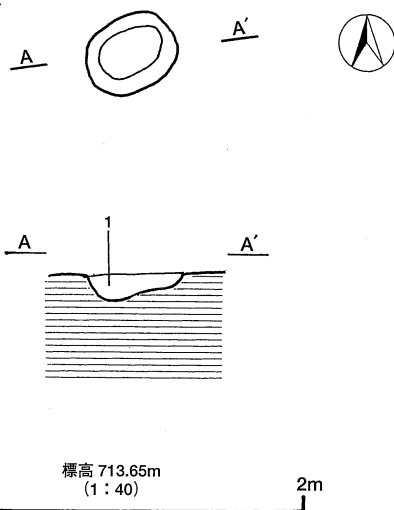
P1号ピットは、うー7グリッドに位置する。全体層序Ⅳ層下方から検出された。楕円形のピットで長軸長48cm、短軸長42cm、深さ15cmを測る。遺物は確認されなかった。

包含層では弥生時代中期のものと思われる土器片が最も多く、そのほかに弥生時代後期のものが多数含まれる。それ以外の時期の所産のものではごく少数であるが古墳時代前期と後期の土器片が認められた。これらは異なる時期の遺物であるが同じ層に混入しており、弥生時代中期と後期の遺物を含む集落、あるいは集

M1号溝址

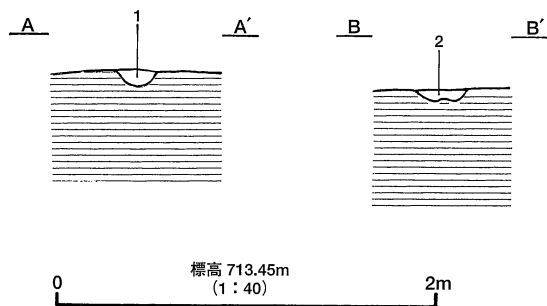


P1号ピット



1 にふい黄褐色土(10yr5/4) しまり、粘性あり。粘土ブロック多量に含む。

M1.セクション図



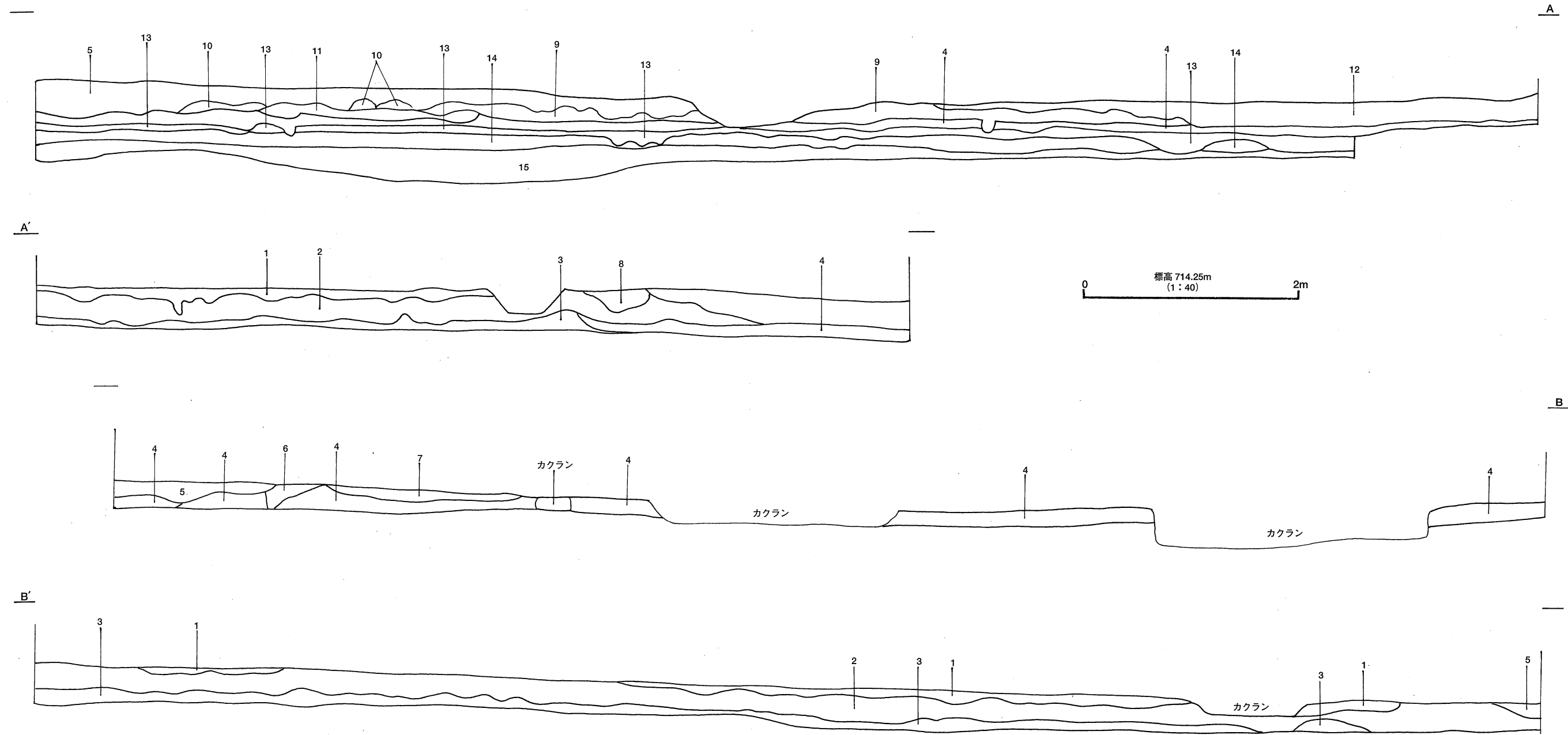
1 黒褐色土(10yr2/3) しまり、粘性あり。粘土、ロームブロックを多く含む。
 灰褐色土(7.5yr4/2) 粘土質土。ローム、粘土ブロック含む。

第5図 M1号溝址・P1号ピット 実測図

落址が一度に河川氾濫により浸食され対象地付近に流されたようである。そのほかに近世の焜炉（こんろ）の破片が認められたのだが、調査対象地は工場の建設、撤去に起因する攪乱が部分的には地中深く及び、これについては攪乱によって混入したものと思われる。

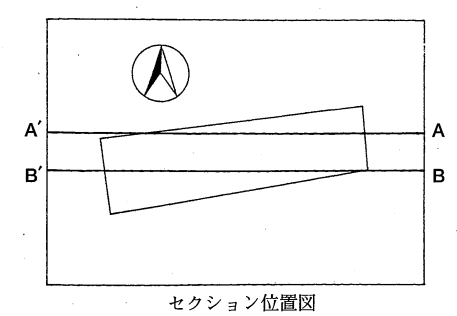
遺物

包含層から出土した遺物はすべてが破片資料である。図化が可能なもの、文様・調整を認めるものについて合計88点を図示した。1～57は弥生時代中期の特徴を持つ土器片。1～3は壺の口縁部で口唇部に縄文を施す。1は口縁に篋描山形文と縄文が施される。4～7は甕の口縁部でやや内側に湾曲するように外反し口縁部に縄文を施すもの、(5・6)口縁部に篋描連続山形文(4・6)、波状文を施すもの(7)、頸部に簾状文を施すもの(5～7)がある。10～46は破片資料で壺であると思われる。9～13は頸部で篋描平行線文の区画内に縄文を施すもの(9・10)、縄文を帯状に施すもの(11・12)、平行線文を施すもの(13)がある。



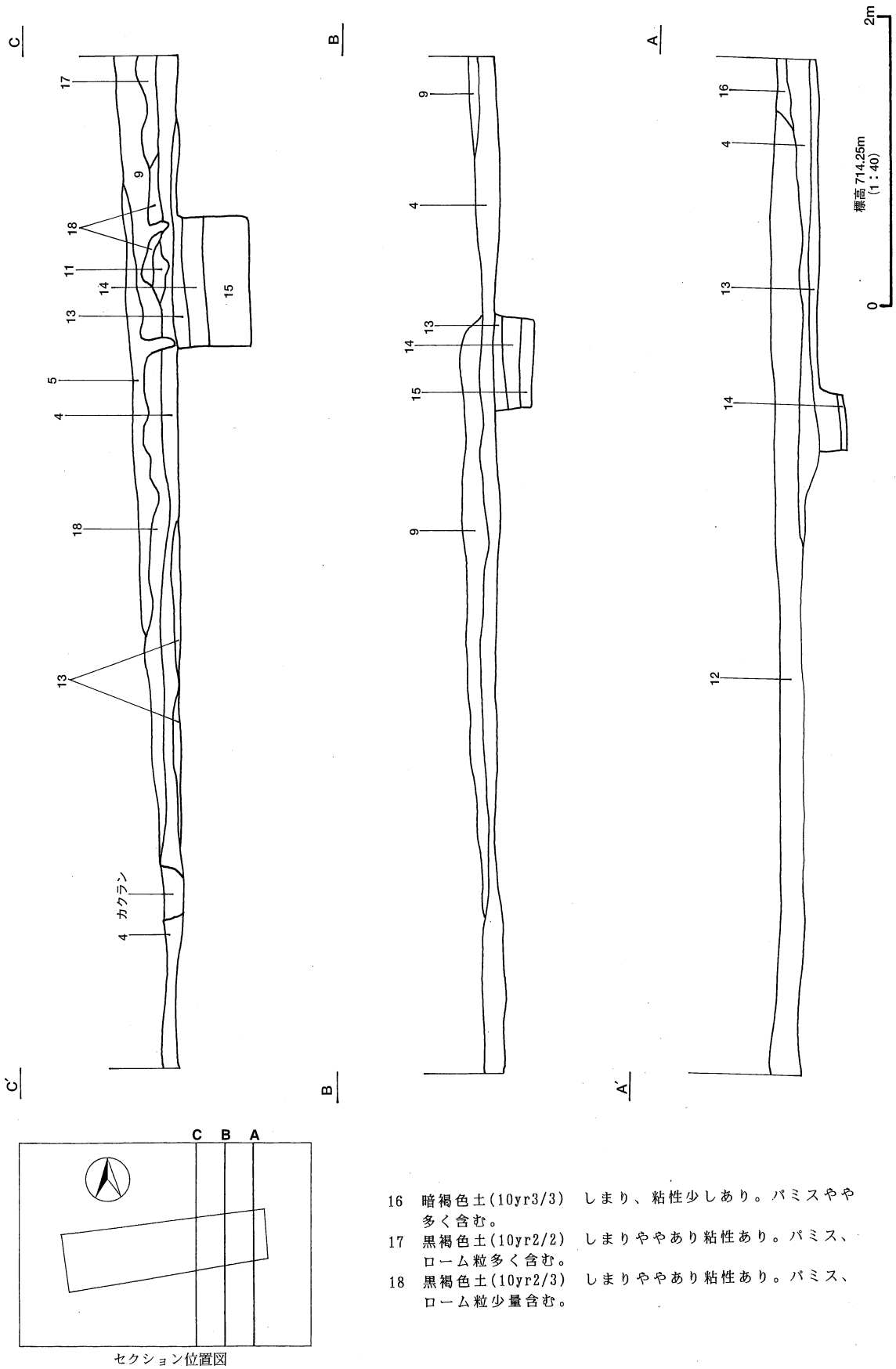
- 1 暗褐色土(10yr3/4) しまり、粘性強い。粘土ブロック多く含む。パミスを含む。
- 2 黒褐色土(10yr3/2) しまり、粘性ややあり。パミス、軽石を含み、粘土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土(10yr3/3) 粘土質土。しまり、粘性あり。パミス、粘土ブロック多く含む、ロームブロックを多く含む。
- 4 黒色土(10yr2/1) 粘土質土。粘性、しまり強い。5mm以下のパミス多く含む。
- 5 黒褐色土(10yr2/3) しまり、粘性ややあり。パミスを含み、粘土ブロック少量含む。
- 6 暗褐色土(10yr3/4) しまり粘性強い。パミスを含み、粘土ブロック多量に含む。
- 7 暗褐色土(10yr3/3) しまり粘性ややあり。パミス、軽石、ローム粒多く含む。
- 8 暗褐色土(10yr3/4) しまり、粘性少しあり。パミス、粘土ブロックを多量に含む、砂が混入する。

- 9 暗褐色土(10yr3/3) しまり、粘性少しあり。パミスを多く含む。
- 10 黒褐色土(10yr3/2) しまりややあり粘性強い。パミス、ローム少量含む。
- 11 黒褐色土(10yr2/3) しまりややあり粘性強い。パミス、ローム少量含む。
- 12 黒褐色土(10yr2/3) しまりあり粘性ややあり。パミス、軽石含む。
- 13 黒褐色土(10yr3/2) 粘土質土。粘性、しまり強い。
- 14 灰黄褐色土(10yr4/2) 粘土質土。粘性、しまり強固。
- 15 におい黄褐色土(10yr2/3) シルト質土。しまり強く、軽石含む。

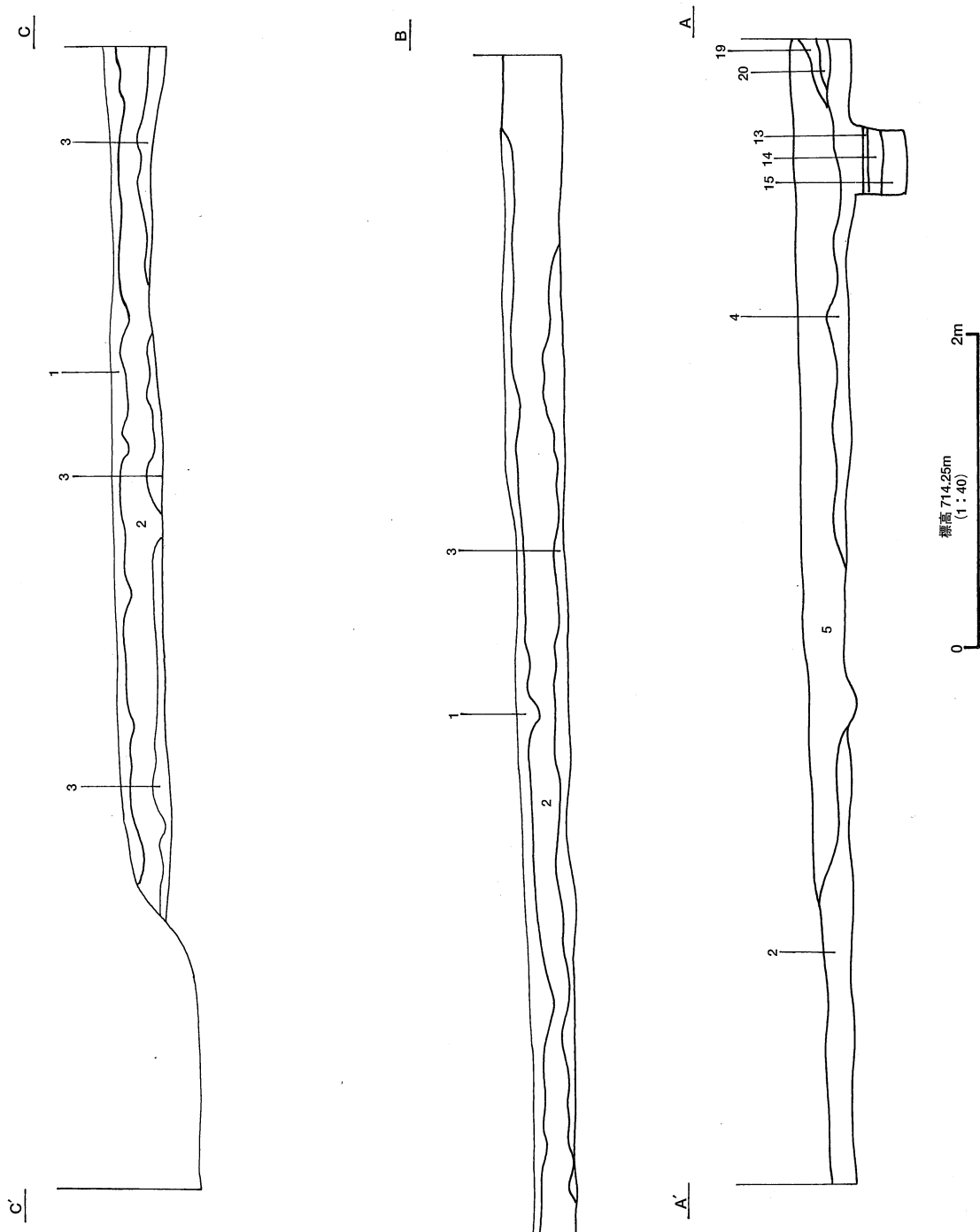


セクション位置図

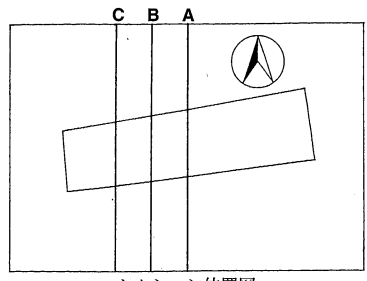
第6図 聖石遺跡II グリッドセクション図 (E-W方向)



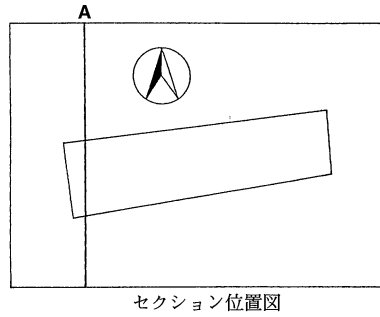
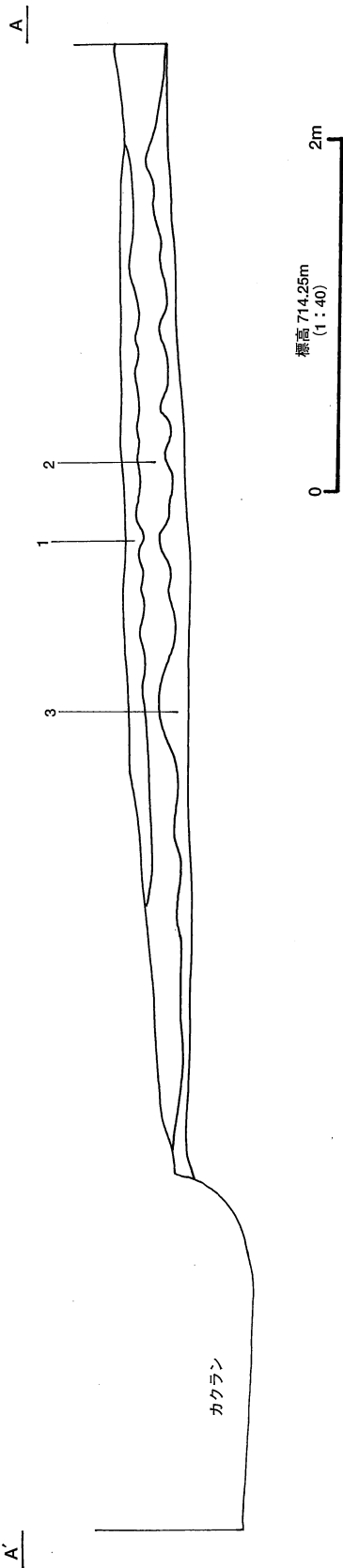
第7図 聖石遺跡Ⅱ グリッドセクション図 (N-S方向・1)



- 19 黒褐色土(10yr3/2) 粘性ややあり。パミス、粘土ブロック含む。
- 20 黒褐色土(10yr2/3) しまり、粘性あり。パミスを含む。



第8図 聖石遺跡Ⅱ グリッドセクション図 (N-S方向・2)



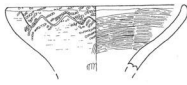
14～19は胴部の破片。14～16には調整のミガキが見られ、17～19にはハケメを認める。20～22は口縁部。篋描山形文と縄文を施すもの(20・21)、篋描縦羽状文が施されるもの(22)。23～45は頸部、胴部の破片。篋描平行線文の区画内に縄文を施すもの(23・26・29・42・43)、篋描平行線文の区画内に篋描山形文と縄文を施すもの。(24・25・27・28・37・40・41)、篋描平行線文の区画内に篋描波状文と縄文を施すもの(30・33・36・39)、篋描波状文と縄文を施すもの(34)、円弧文が見られるもの(32・35)、44は篋描平行線文の区画内に連続山形文を施し、刺突文と櫛描垂下文が見られるもの、45は篋描縦羽状文。46～57は底部。46～48は外部にミガキが施される。

58～83は弥生時代後期の特徴を持つ土器片。58は鉢。59・60は壺の口縁部か。これらはともに内外面に赤彩を施す。61～77は甕。61～65は口縁部で、波状文(61・65)、櫛描縦羽状文(62～64)を施す。66・67は頸部。ともに波状文と頸部に簾状文を施す。68～77は胴部の破片。波状文(68～73)、櫛描縦羽状文(74・75・77) 櫛描縦羽状文と簾状文(76)が見られる。78・79は壺の頸部。78は篋描斜走文、79は篋描平行線文の区画内に篋描格子状文を施す。81は甕の頸部。簾状文と刺突文を施す。80・82・83は甕の胴部。櫛描縦羽状文(82・83)、80は篋描コの字重文か。

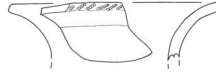
84・85は古墳時代前期の土器片。84は台付甕の脚部。85は甕の口縁部。86・87は古墳時代後期の土器片。

いずれも長胴甕の胴部。88は近世の焔炉。上に温めるものを乗せるために付けられた爪が欠損している。89は石製品。鋸歯状の刃を持つ石鏃で、茎部付近に欠損があり有茎か無茎かは不明。弥生時代の所産であろう。

第9図 聖石遺跡Ⅱ グリッドセクション図
(N-S方向・3)



1 G-え3-9層



2 G-え4-5層



3 G-え5-1層



4 G-う7-1層



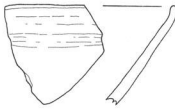
5 G-う6-2層



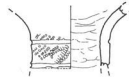
6 G-え4-5層



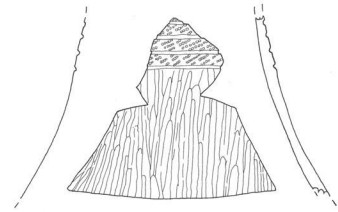
7 G-お5-5層



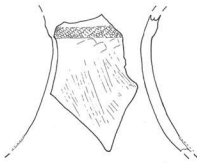
8 G-お2-2層



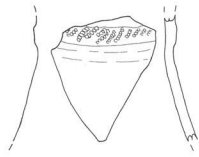
9 G-お6-2層



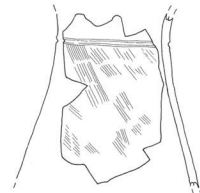
10 G-え5-5層



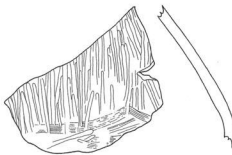
11 G-え6-1層



12 G-え4-9層



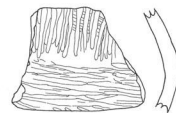
11 G-お4-9層



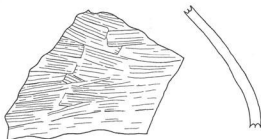
14 G-え4・え6-5層



15 G-え3・え4-9層



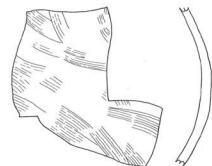
16 G-え5-5層



17 G-え4-5層・え6-2層

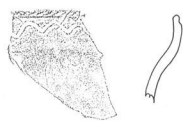


18 G-え5-5層



19 G-え5-2層

第10図 聖石遺跡II 出土遺物(1)



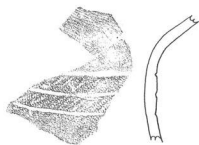
20 G-え 6-1層



21 G-え 4-5層



22 G-え 6-1層



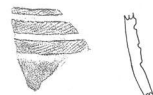
23 G-え 5-2層



24 G-え 5-2層



25 G-え 5-5層



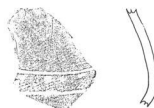
26 G-え 5-2層



27 G-え 3-9層



28 G-お 4-5層



29 G-お 6-2層



30 G-え 5-5層



31 G-え 5-2層



32 G-お 6-1層



33 G-え 5・え 6-2層



34 G-お 5-5層



35 G-え 4・え 5-5層



36 G-え 5・え 6-2層



37 G-え 5-5層



38 G-え 4-5層



39 G-お 6・え 5-1層



40 G-え 4-9層

第11図 聖石遺跡Ⅱ 出土遺物(2)



41 G-え 7-2層



42 G-え 4-4層



43 G-え 4-4層



44 G-え 1-12層



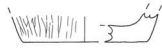
45 G-う 6-2層



46 G-え 5・え 6・お 6-2層



47 G-え 6-2層



48 G-う 8-2層



49 G-お 4-9層



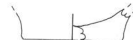
50 G-う 6-2層



51 G-お 6-2層



52 G-え 4-5層



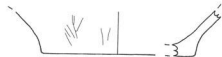
53 G-え 8-1層



54 G-え 5-2層



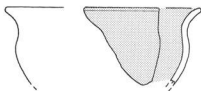
55 G-お 2-12層



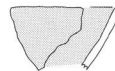
56 G-え 1-12層



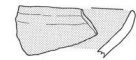
57 G-え 2-16層



58 G-え 1-12層



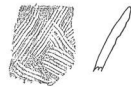
59 G-え 7-1層



60 G-お 2-12層



61 G-え 5-5層



62 G-お 5-2層



63 G-お 4-11層



64 G-お 3-9層



65 G-え 5-2層



66 G-お 3-9層

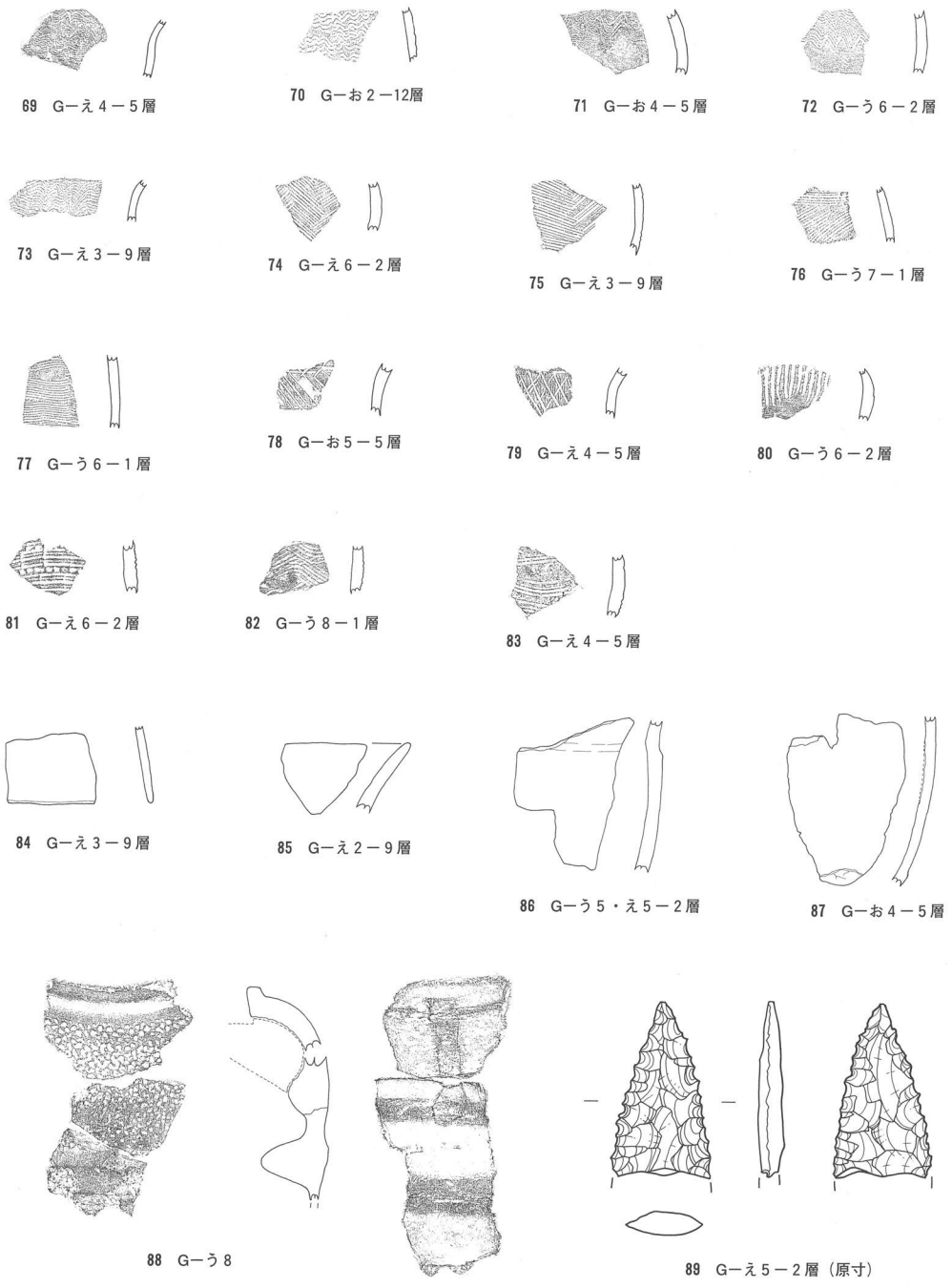


67 G-え 1-12層



68 G-え 4-9層

第12図 聖石遺跡II 出土遺物(3)



第13図 聖石遺跡Ⅱ 出土遺物(4)

写真図版

写真図版目次

- 図版一 聖石遺跡Ⅱ 遺跡周辺遠景（北から）
調査区近景（東から）
- 図版二 調査風景
グリッドセクション（お-3～え-3・西から）
P1号ピット（南から）
- 図版三 M1号溝址（東から）
調査区近景（調査終了時・南から）
- 図版四 聖石遺跡Ⅱ出土遺物（1）
- 図版五 聖石遺跡Ⅱ出土遺物（2）
- 図版六 聖石遺跡Ⅱ出土遺物（3）
- 図版七 聖石遺跡Ⅱ出土遺物（4）



聖石遺跡Ⅱ 遺跡周辺遠景（北から）



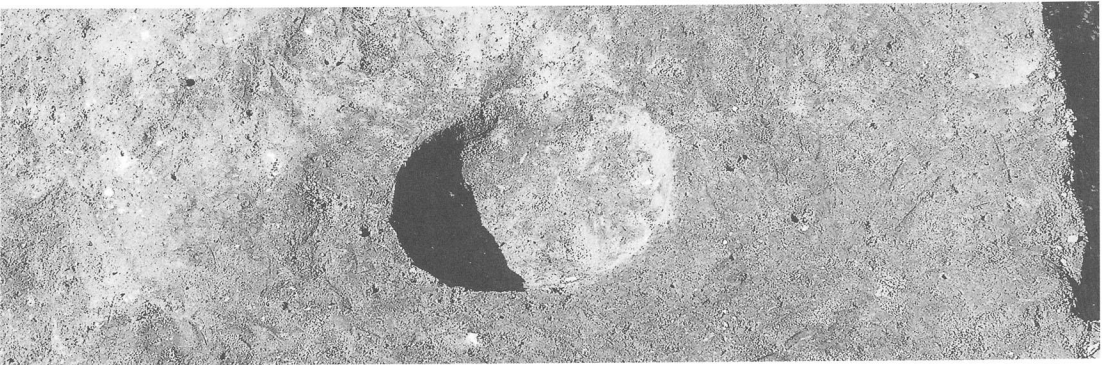
調査区近景（東から）



調査風景



グリッドセクション（お-3～え-3、西から）



P1号ピット（南から）



M1号溝址（東から）



調査区近景（調査終了時。西から）



1 G-え3-9層



2 G-え4-5層



3 G-え5-1層



4 G-う7-1層



5 G-う6-2層



6 G-え4-5層



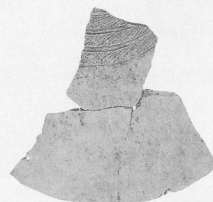
7 G-お5-5層



8 G-お2-2層



9 G-お6-2層



10 G-え5-5層



11 G-え6-1層



12 G-え4-9層



13 G-お4-9層



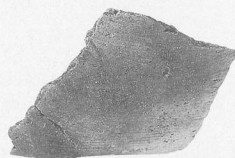
14 G-え4・え6-5層



15 G-え3・え4-9層



16 G-え5-5層



17 G-え4-5層・え6-2層



18 G-え5-5層



19 G-え5-2層



20 G-え6-1層



21 G-え4-5層



22 G-え6-1層



23 G-え5-2層



24 G-え5-2層



25 G-え5-5層



26 G-え5-2層



27 G-え3-9層



28 G-お4-5層



29 G-お6-2層



30 G-え5-5層



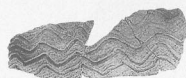
31 G-え5-2層



32 G-お6-1層



33 G-え5・え6-2層



34 G-お5-5層



35 G-え4・え5-5層



36 G-え5・え6-2層



37 G-え5-5層



38 G-え4-5層



39 G-お6・え5-1層



40 G-え4-9層



41 G-え7-2層



42 G-え4-4層



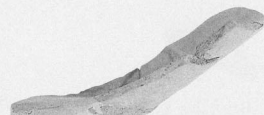
43 G-え4-4層



44 G-え1-12層



45 G-う6-2層



46 G-え5・え6・お6-2層、3層、1:3



47 G-え6-2層



48 G-う8-2層



49 G-お4-9層



50 G-う6-2層



51 G-お6-2層



52 G-え4-5層



53 G-え8-1層



54 G-え5-2層



55 G-お2-12層



56 G-え1-12層



57 G-え2-16層



58 G-え1-12層



59 G-え7-1層



60 G-お2-12層



61 G-え5-2層



62 G-お5-2層



63 G-お4-11層



64 G-お3-9層



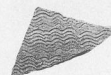
65 G-え5-2層



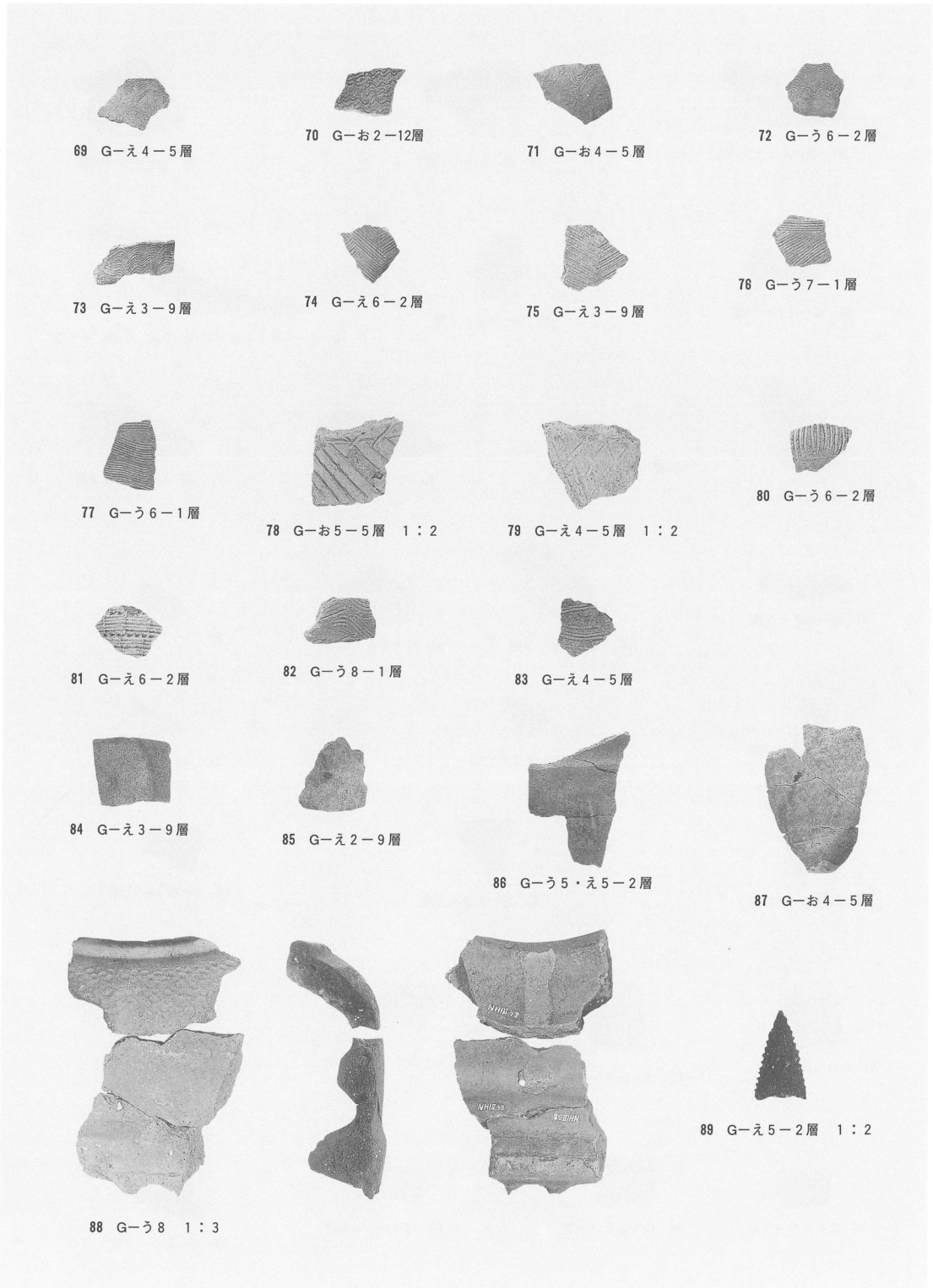
66 G-お3-9層



67 G-え1-12層



68 G-え4-9層



聖石遺跡Ⅱ 出土遺物(4)

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第1集 『金井城址』
第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』
第3集 『石附窯址Ⅲ』
第4集 『大ふけ遺跡』
第5集 『立科F遺跡』
第6集 『上曾根遺跡』
第7集 『三貫畑遺跡』
第8集 『瀧の下遺跡』
第9集 『国道141号線関係遺跡』
第10集 『聖原遺跡Ⅱ』
第11集 『赤座垣外遺跡』
第12集 『若宮遺跡Ⅱ』
第13集 『上高山遺跡Ⅱ』
第14集 『栗毛坂遺跡』
第15集 『野馬久保遺跡』
第16集 『石並城跡』
第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』（1月～3月）
第18集 『西曾根遺跡』
第19集 『上芝宮遺跡』
第20集 『下聖端遺跡Ⅲ』
第21集 『金井城跡Ⅲ』
第22集 『市内遺跡発掘調査報告1991』
第23集 『南上中原・南下中原遺跡』
第24集 『上聖端遺跡』
第25集 『上久保田向遺跡Ⅳ』
第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
第27集 『上久保田向遺跡Ⅲ』
第28集 『曾根新城Ⅴ』
第29集 『筒村遺跡B 山法師遺跡B』
第30集 『市内遺跡発掘調査報告1992』
第31集 『山法師遺跡A 筒村遺跡A』
第32集 『東ノ割』
第33集 『聖原遺跡Ⅶ 下曾根遺跡Ⅰ 前籾部遺跡2』
第34集 『西一本柳遺跡Ⅰ』
第35集 『市内遺跡発掘調査報告1993』
第36集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』
第37集 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西の久保遺跡Ⅰ』
第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』
第39集 『中屋敷遺跡』
第40集 『寺畑遺跡』
第41集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ』
第42集 『寄山』
第43集 『権現平遺跡・池端遺跡』
第44集 『寺添遺跡』
第45集 『市内遺跡発掘調査報告1994』
第46集 『濁り遺跡』
第47集 『上芝宮遺跡Ⅴ』
第48集 『池端城跡』
第49集 『根々井芝宮遺跡』
第50集 『藤塚遺跡Ⅲ』
第51集 『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』
第52集 『坪の内遺跡』
第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』
第54集 『市内遺跡発掘調査報告1995』
第55集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第56集 『聖原遺跡Ⅹ』
第57集 『高師町遺跡Ⅱ』
第58集 『下虫穴遺跡Ⅰ』
第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』
第61集 『割地遺跡』
第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』
第63集 『西大久保遺跡Ⅲ』
第64集 『梨の木遺跡Ⅳ』
第65集 『中宿遺跡』
第66集 『中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』
第67集 『供養塚遺跡』
第68集 『前籾部遺跡』
第69集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第70集 『観音堂遺跡』
第71集 『市内遺跡発掘調査報告書1997』
第72集 『市道遺跡Ⅱ』
第73集 『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』
第74集 『五里田遺跡』
第75集 『八風山・五斗代』
第76集 『南近津遺跡』
第77集 『番屋前遺跡Ⅲ』
第78集 『蛇塚遺跡 蛇塚古墳』
第79集 『四ッ塚遺跡Ⅰ』
第80集 『四ッ塚遺跡Ⅱ』
第81集 『薬師寺遺跡』
第82集 『市内遺跡発掘調査報告書1998』
第83集 『下聖端遺跡Ⅳ』
第84集 『榛名平遺跡』
第85集 『柳堂遺跡』
第86集 『市内遺跡発掘調査報告書1999』
第87集 『宮遺跡』
第88集 『下曾根遺跡』
第89集 『川原端遺跡』
第90集 『梨の木遺跡』
第91集 『西一本柳・中長塚・松の木遺跡』
第92集 『辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ』
第93集 『入高山遺跡』
第94集 『聖石遺跡』
第95集 『市内遺跡発掘調査報告書2000』
第96集 『上木戸遺跡』
第97集 『久瀬添遺跡』
第98集 『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』
第99集 『中道遺跡Ⅱ』
第100集 『野沢館跡Ⅲ』
第101集 『深堀遺跡Ⅳ』
第102集 『円正坊遺跡Ⅳ』
第103集 『聖原 第1分冊』

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第104集

聖石遺跡Ⅱ

2002年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所